

海老名災害ボランティアネットワークだより



2019年6月1日発行 第34号

発行 海老名災害ボランティアネットワーク（海老名災ボラ）
事務局 海老名市めぐみ町6-3、海老名市社会福祉協議会地域福祉課内
ホームページアドレス <http://www.ebina-saibora.net/>

体験型講座 減災・災害対応訓練に参加を!!

- 「事前の備えと体験型訓練」で自分と家族を災害から守るために●

海老名災害ボランティアネットワークでは、これから起こるといわれている「首都直下型地震」や「南海トラフ地震」に対して、自分と家族の命を守り、被害を最小限に抑えるための「体験型講座 減災・災害対応訓練」を実施します。災害への関心と「自助」力の充実を進めましょう!

【 体 験 型 講 座 の 内 容 】

①災害発生時の命を守る基本（シェイクアウト）



② 食糧・水の備蓄と災害食体験（昼食）

③災害時のトイレ活用体験

④家具の固定、ガラス飛散防止対策

⑤通電火災防止対策（感震ブレーカー）
と停電時の明かり対策

日時：2019年6月29（土）10時～12時30分

会場：海老名市総合福祉会館（〒243-0438 海老名市めぐみ町6-3）

主催：海老名災害ボランティアネットワーク

<http://www.ebina-saibora.net>

後援：海老名市

後援：海老名市社会福祉協議会

参加費：無料 募集人員：30名

問い合わせ先：090-2160-4352



【参加申込み】 FAX：046-233-4529 またはメールで
[mail:edvn-info@ebina-saibora.net](mailto:edvn-info@ebina-saibora.net)

①氏名 ②住所 ③連絡先（電話） ④E-mail（ある方のみ）を記載して、メールまたはFAXで申し込んでください。

海老名災害ボランティアネットワーク、定期総会を開催

平成31年（2019年）4月13日（土）午後、海老名災害ボランティアネットワークは、第18回定期総会を開催しました。内野優・海老名市長、河野誠一・社会福祉協議会会長の来賓あいさつを頂き、平成30年度の事業報告、収支決算報告、平成31年度（2019年度）の役員、事業計画、予算などを決定しました。

★2019年度役員

代表・福田博、副代表・水本晶子、星野隆一郎、会計・松井俊輔、小澤昌平

《 海老名災害ボランティアネットワークの年間事業計画 》

年月	主な事業（予定）
2019年4月	海老名災ボラ、第18回定期総会
5月	「海老名市ボランティア連絡協議会」の総会に初参加
6月	6月29日体験型講座：災害・減災対応訓練（災ボラ主催、1面）
7月	小学校「海老名っ子スクール」（旧サマースクール）に協力（講師派遣）
7月～10月	自治会・各種団体の自主防災訓練に参加・協力（展示・実演など）
10月～11月	防災マップづくり体験講習会を開催（災ボラ主催）
12月	「ふれあい交流会」（障害者団体・社協・ボラ連など）に参加・協力
2020年2月	「災害ボランティアセンター・コーディネーター養成講座」（社協）

★大規模な災害が発生した場合には、被災地・被災者支援活動に参加・協力します。

平成31年2月、災害ボランティアセンター・コーディネーター養成講座の報告

平成31年（2019年）2月17日（土）と24日（土）の2日間にわたり、海老名市災害救援ボランティアセンター（注）・コーディネーター養成講座が、海老名市社会福祉協議会と海老名災害ボランティアネットワークの共催で開催されました。海老名市民

【2月17日（土）10時～15時】参加者は市民17名、社協・災ボラなども含めて計32名

- ① 災害時における海老名市の対応：海老名市危機管理課
- ② 災害時における海老名市社会福祉協議会の役割：海老名市社会福祉協議会
- ③ 海老名災ボラの（平常時と災害時を貫く）活動について：海老名災ボラ
- ④ 災害救援ボランティア運営の実際：神奈川県社会福祉協議会

【2月24日（土）10時～12時】参加者は市民16名、社協・災ボラなども含めて計31名

- ① 災害救援ボランティアセンターの設置運営訓練

（注）「海老名市災害救援ボランティアセンター」とは：

海老名市内に地震や大規模な風水害による被害が発生した場合、被災者からの要請（ニーズ）に応え、災害救援ボランティアの受け入れと円滑な運用を行うために、海老名市との緊密な連携・協力のもとに、海老名市社会福祉協議会を中軸として様々なボランティアの参加・協力によって設置される組織である。東日本大震災以降、社会福祉協議会を中軸とした「災害ボランティアセンター」が急速に普及した。

2011年3月の東日本大震災の時に、被災地からの被災者を市内避難所に受け入れるために設置されたが、海老名市内の避難所には被災者が来なかった。その後、海老名市社会福祉協議会と海老名災ボラは協力して、岩手県や宮城県の被災地支援の活動を推進した。 以上